

Y08a アイソン彗星など天文現象等の参加型ウェブキャンペーンの連携実施とその評価

縣秀彦, 石崎昌春, 長山省吾, 久米香理, 岩城邦典, 高田裕行 (国立天文台), 上山治貴, 豊田哲也 (アストローツ), 都築泰久 (ビクセン/日本望遠鏡工業会), 野呂和史 ほか各実行委員会一同

国立天文台天文情報センターでは、2004年よりウェブを用いた天文現象等の双方向市民参加型のキャンペーンイベントを実施してきた(渡部他、2008年秋 Y05a)。これまで行ってきたキャンペーンとは、流星群、皆既月食、明るい彗星など一般市民にとって比較的容易に観察可能な天文現象の際に、ウェブ上の観察方法等の情報を参考に天体観察を実施し、その結果をネットを使って報告するというものである。成果は天候等によって左右されるものの、毎回数百から数千件の報告が寄せられ、効果的なアウトリーチ手法と評価してきた。特に普段はあまり天文に興味を持たない市民層や関心はあるもののアプローチの仕方が分からなかった層に対し効果が高いと推察されている。しかし、(1)全国各地の公開天文台やプラネタリウム等の活動と連動しきれていない、(2)マンパワーや資金が国立天文台のみでは十分ではなくマンネリ化しつつある等の課題を抱えていた。

そこで、2012年度より、一部のキャンペーンについては、日本天文協議会の下に実行委員会を組織し、JPA、JAPOS、天教など加盟団体のほか関連企業や団体と協力して実施することにした。「北極星を見つけよう!」(2012年9-11月)、「パンスターズ彗星を見つけよう」(2013年3-4月)の各キャンペーンを実施したところ、連携実施のメリットや課題が明らかになった。現在、これらの経験に基づき「アイソン彗星を見よう(仮称)」キャンペーンを計画中である。本講演では、これらのキャンペーンの評価と課題解決への取り組みについて報告する。